

◇は委員、◆は事務局の発言です。

協議

(1) 令和5年度学校目標（重点目標）については、特に意見がありませんでした。

(2) 中学校

①学校評価

事務局から昨年度との変更点を説明した後、協議しました。

- ◇評価指標の目標数値を85%に統一して共通理解がなされていることはよいが、85%という数字設定の理由を教えてください。
- ◆昨年度の達成状況を見ると70%の項目があれば、90%を超えている項目もあり、教員で相談して85%を設定した。
- ◇重点課題(2)について、ICT活用＝「主体的・対話的で深い学び」でないということはその通りだが、ICTを効果的に活用する観点は必要。
- ◆中学校ではデジタル教科書を使い、生徒たちも数学と英語では学習者用デジタル教科書を取り入れている。ICTが前提になっているので見直しを図ってほしいと思う。
- ◇重点課題(2)に関して、質問タイムや各種検定に取り組むことは個々の生徒の学力を伸ばすことになると思うが、活動計画には「教員が意図しなくても互いに学び合う雰囲気醸成する」とある。質問タイムや検定に取り組む時間を設定すれば学び合う雰囲気が醸成されるという考えは疑問に感じる。
- ◇重点課題(2)に関して、学習指導要領で「育成を目指す資質能力を子供たちに育成していくために主体的対話的で深い学びを実現していく授業改善が必要」とあるので、重点課題・目標のつながりはこれでいいが、具体化する活動計画は総合学習が中心になっている。資質・能力を育成するために、それぞれの教科で主体的対話的で深い学びを実現する授業改善をしていくような活動が必要だと思う。
- ◆この2年間、総合的な学習の時間に重点的に取り組み、学校運営協議会の協力により、校外で行動できる生徒が増えて、大きく変わってきたと感じる。それをベースに、6年間で、グローバルな視点を持って地域社会に貢献していく力を育成するという一方で、学校のスクールミッションになっている。学力がどのように総合的に生きていくかという視点で捉え直したい。
- ◇重点課題(3)について、内容をみるとこの項目の課題はキャリア教育。なので、キャリア教育の問題を入れた方がよい。
- ◆キャリア教育は、2年生の職業体験で取り入れている。将来の職業や進学について、中学生段階から意識付けを図って、6年間で実現できるようにしたい。
- ◇重点課題(5)について、活動計画に学級集団をつくることの文言はなく、支え合う仲間作りを目指している。集団をつくるために、子供同士の関係性をつくらなければならないし、それが機能する学級集団をつくらなければならない。基本単位は学級なので、学級集団をどうつくるかに関わる具体的な活動が入るのかと思う。
- ◆今年度、吉野川市人権教育研究会の担当校で、研究大会に向けて、授業づくりや日頃からの集団づくりということで、生徒たちが自分の考えを安心して発表できる場をつくる視点を教員が持っている。集団をどのように築くのか、考えていきたい。
- ◇重点課題(2)に関わって、総合的な学習の時間を中心に据えるというのは、カリキュラム的に中学校3年間を高校に接続し、高校生が中学生に教えるとか一貫教育の中で総合学習が機能する部分が多くある。昨年度の研究大会がレガシーとして受け継がれたらよいと思う。それに関わって、総合学習でやっていることを含めてキャリア教育とするならば、総合学習の実践があってキャリア形成につながることも活動計画の中に入る。人権と

いうと何か特別な時間や授業と、大会を受ければ当然授業を公開するが、そのときに日々の学習、教科の学習指導の中で人権的な視点があり、仲間作りに関係する。教科指導の中で、お互いの意見を尊重できる、仲間ができていくと認め合って支え合ってともに伸びていく仲間ができていくというような、教科の中で人権教育ができていく視点があったらいい。

②校則の見直しについて

- ◆高校で作成した「校則の見直しについて」資料を示す。昨年12月に国が「生徒指導提要」を改訂したことを受け、県教育委員会から通知が届いた。その中に「PTAや学校運営協議会の意見聴取を尊重」の指示があったので、本日お諮りしたい。
- ◆毎年4月に3年生が生活オリエンテーションを行う。主に学校内、通学時の自動車、携帯電話の使用等のマナーやルールをグループに分かれて確かめ合っている。また、生徒会の専門委員会を開き、できていないことについて目標を掲げ、生徒昇降口のホワイトボードに記入する。生徒は校舎に入った瞬間にホワイトボードの項目を見て、自分ができていないことなどを確認できる。
- ◆生徒が参画しての生徒心得見直しはできていない。教員から見てブラック校則になっていないか、生徒にとってわかりやすいかとの視点で見直した。髪はツブロックの是非が問われているが、高校と同様に極端のものを除き禁止していない。靴下は白・黒・紺のワンポイントとしているが、くるぶし丈のものをどうするか等が課題と考えている。膝掛けについて、足下が寒いので普段は使用を認めているが、考査時は禁止している。水分補給は健康のためにお茶の持参を勧めている。放課後のみ高校棟の自販機で購入してよいとしているが、水・お茶・スポーツ飲料に限っていることについて、教員間でも意見が分かれている。
- ◇国や県、学校の取組の進捗状況を見て気になることは、努力義務になった自転車のヘルメット。中学校では校則でヘルメット着用を指導しているが、高校に入った途端に被っていない。その点を子供たちにどのように説明していくのか。地域の者、大人もそうだが、子供たちの自主的な意見が出れば、先生方や地域の大人が話していける。中高一貫教育校の良さを示してもらえれば協力できる。
- ◆中学校は本校に限らず、ヘルメット着用が校則に規定されているが、高校にはない。現状でヘルメットを着用して自転車通学している生徒は10人に届かないぐらい。呼びかけを何度もしている。
- ◇校則を生徒が見直すことは、非常に大事なこと。私が小学校教員をしていたとき、学級のルールは学級活動で話し合っていた。子供たちは、自分たちで決めたことを守る意識は強い。それが主権者になったときの意識としても大事で、主権者教育の一環としても意義がある。今の校則を生徒がどのような視点で変えていこうとするのかが大事なので、進捗があれば次の協議会でお話ししたい。
- ◇私は大学にヘルメット着用で自転車通勤しているが、学生は誰も被っておらず、調査でも大学生が最も着用率が低い。努力義務なので被らなくてもよいが、中学校は校則にあり、高校に無いのは何故となる。命を守る観点から、子供から意見として出ればうれしいが、髪型や暑いこともあり難しいか。県警も切符を切るといっているのだから、考えていくことが必要だと思う。

(3) 高校

①学校評価

事務局から昨年度との変更点の説明を受けて、協議しました。

- ◇川島高校の先生が夕方、神後交差点で登下校を指導されている。その効果で、交差点東側の歩道が拡幅されたのか。
- ◆今回、そういう理由で拡幅されたとは聞いていない。
- ◇以前、川島中学校・高校の生徒から歩道が狭くて危険との意見を聞いたことがあるので、拡幅されてよかったと思う。
- ◇中学校は全て 85%に揃えているが、高校は揃えていない。昨年度までの実態を踏まえ、この割合が適当と考えているのか、何か理由があるのなら教えてほしい。
- ◆各重点課題で担当課を分けており、御指摘を踏まえて、昨年度の実態や目指すべきところを考慮して目標数値を設定した。高校全体を統一する議論にはならなかった。
- ◇重点課題（1）の指標の②は、生徒の学習内容の満足度を測ったらなぜ一貫教育の推進になるのかわからない。昨年度も質問したので、その理由を教えてほしい。
- ◆生徒が学習内容だけでなく、学校全体にいか満足していくかが一貫教育の表れと考え、昨年度と同じ表現とした。アンケートも教育活動全体への満足度ということで全生徒対象と、県立中学校出身生に限ったものを比較し、県立中学校から川島高校に上がってよかったと思う生徒がどのくらいいるのかを測り、満足度を確認している。
- ◇中高一貫教育の指標②が学習内容の満足度になっているので、違和感があった。説明の中で学校生活の満足度とあったので、学習も行事も全てを含めて満足度とすれば一貫校としての学校生活ということで学習に限ったことでなくなるので、問題ない。
- ◇重点課題（2）の②に関わって、重点目標②に「主体的・対話的で深い学びを目指す」とある。活動計画の②をみても「主体的・対話的で深い学びを目指す」のに、学力・学習条件についての目標・考察を設定し、学習支援体制の改善に努めるという方向に合致していない。評価シートに年間3回の授業公開週間を設定するとある。重点目標の改善につなげる手立てを教えてほしい。
- ◆②の ICT について、これだけでは活動計画の中で主体的・対話的で深い学びを目指すことにならないとの御指摘と思う。6月に授業見学週間を設け、昨年度よりは一步踏み込み、期間内に研究授業を設定して研究協議も行うなど改善した。活動計画に現れていないことは申し訳ない。
- ◇少しでも他の先生の授業をみるのが大事。研究授業はそのための授業をつくる。小学校で勤務していたとき、OJTの一環で、空き時間に同じ学年の先生の授業を見学して気づいたことを付箋に貼っておくとか、教員同士が学び合うことをしていた。指標に週間を設定するとあるので、計画にもそれに見合った記述があればわかりやすい。
- ◇重点課題（5）で、高校は小中学校よりは集団づくりが難しくなっていくと思うが、人権に関わって HR で集団づくりや子供たちの関係性に関わるような視点がない。
- ◆1学期も終わりに近づき、各 HR で球技大会や文化祭・体育祭に向けて、クラスシャツをつくったりして、仲間作りができていていると考えている。
- ◇重点課題の（6）について、重点目標の①に生徒の自主性の育成に努めるとある。目標は自主性だが指標は満足度になっている。自主性を図るのなら満足度ではないので、理由があれば教えてほしい。
- ◆生徒会を中心に学校祭等の準備を進めている。新たに後夜祭をしたいとの声もあったが、具体性が全くないため自分たちで具体案を考えるよう促した。高校生なので、具体的な計画を考えるようにと。この後でご審議いただく校則にも関わるが、自主性の育成に努めている。
- ◇重点課題（3）生徒の能力・適性に応じた進路の実現の活動計画②に「夏季休業中、冬季休業中、大学入学共通テスト後などに、三者面談を実施する」とある。以前は年次 PTA の後に希望者と思うが面談の機会があったと思う。

- ◆昨年度も年次 PTA の後に面談はなかったと思う。この 3 つの期間だけでなく、必要により面談や家庭訪問をしている。
- ◆高校は学校評価計画を既に HP にアップしているので、御指摘いただいた点を修正して今年度は取り組んでいきたい。また、中学校・高校ともに、3 回目の協議会で総括をお願いしたい。

②校則

- ◆今年度の取組案を説明させていただく。「児童生徒の主体的な参画」「手順や手続きの明文化」を具体化するため、生徒会総会の規定に「校則に関すること」を付け加えることを考えている。もちろん、生徒が決めること。また、各 HR で校則の見直しを話し合う時間を設け、HR の意見を生徒会中央委員会で議論し、可決されたものを職員会議で検討する。これを行うことで、生徒の主体的な参画と手続きの明文化ができると考えている。
- ◇生徒心得は中学校と似通った形になっていると思うが、規律に関する事項の(12)「次の行為はぜったいにしないこと」に④暴力行為・いじめとあるが、中学校にはいじめの文言がない。統一した方がいいかなと思った。
- ◇制服が替わる頃から、くるぶしソックスの指導は悩ましかった。「集会及び式典時は本校所定の刺繍入り紺ソックスのみ可」とあるが、臨時集会で靴下が間に合わない生徒がいるのではないのか。以前になかった厳しい規定だと思う。急に集会を開催するときも靴下はきちんとさせているのか山田教頭：コロナ渦では全校集会の大半が zoom だった。今年度は体育館で行うが、急に集めることはない。
- ◇くるぶしソックスは微妙で、くるぶしが完全に見えるもの、かろうじて隠れる数センチの差をどう考えるか、当時は議論した。
- ◇川島高校生徒の制服、部活動の生徒の服装を見ていると、清潔感というか、いい面が現れて感心している。挨拶もきちんとでき、いい方向でいっている。これからの時代、自由にしていこうと行けない家庭が出てくると思う。自由は大事なことだが、経済的な面も考えてほしい。
- ◇校則は中高ならキャリアに応じて、小学校は発達段階に応じてという言葉が使われる。高校の生徒心得の 1, 2, 6 はそれぞれ中学校の 1 と 3 と 4 に合致している。これらは同じような内容なのでいいかと思われる。通学に関する事項には、中学校のみに関するルールが「登下校時に飲食をしたり飲食物を購入したりしないこと」「歩行中や自転車運転中に飲食をしたり携帯電話を使用したりしないこと」とある。高校にそれらの規定はなく、「混雑による危険を防止し通行車両や周辺住民に迷惑をかけないように」との規定は保護者向けと思う。毎週水曜日にキッチンカーが出ていて、高校生が集って和気藹々としていて、周辺住民も喜んでいる。中学生はそこに入れないのかな、高校生になればいけると楽しみを先延ばしにして気持ちをつないでいるのかとったりする。
- ◇携帯電話について、中学校は「学級担任に預ける」。高校は「各自の責任で管理を徹底してください」とあって、指導の仕方によっては何故となりかねない。校則についていま話題になっているのは見栄えのことばかりで、川島中高生は清潔なスタイルでいると思う。それでもまだ見栄えについて言うのであれば、子供たちが自分たちで相談することが、どこの学校でも中心になる。
- ◆携帯電話やキッチンカーを含めて飲食のこと等、中学生と高校生では発達段階が違うので、一つの県立学校でありながら違いは出てくる。
- ◆何人かはキッチンカーを利用していたが、中学生段階では学校から寄り道せずに帰る、買い食いをしないという指導が前提になる。携帯電話について、多くの中学校は学校に持ってこないという指導になっている。本校は通学範囲が広く、送迎が必要な生徒もいるので、

自転車・徒歩通学を除いて、送迎があるときのみ携帯電話の持ち込みを許可する。生徒の主体的参画による見直しをすると、生徒から見直しを求める意見が出てくると思うが、今のところ保護者の理解をいただいている。

- ◆県立学校は10月を目途にホームページに校則をアップするよう県教委から指示を受けている。吉野川市の中学校は1月頃にアップすると聞いている。中学校については近隣中学校も参考にしたい。
- ◇中高一貫校なので、高校の校則、中学校の校則を知ることは大切。義務教育の中学校と、高校では違うところはある。違いを教職員が共通理解して指導することが大切。生徒が校則を検討して実現し実行していくことは望ましいこと。何でもありになると危惧されると思うが、学校の伝統を重んじる、気風を大事にする意識を高校生は持っている。
- ◆具体的に校則のこの箇所を変えるべきとの御意見はなかった。今後、生徒の話し合いを経て、生徒の意見を全て採用するわけではないが、教員と生徒が話し合いをして進めていく。